

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	C	配分額	283,000 円
研究課題	幼児期における片付け行動の人間工学的研究		

研究代表者

氏名	太田朋宏	所属	美術・書道講座	職名	教授
----	------	----	---------	----	----

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

本研究は2歳から5歳あたりの未就学児における整理整頓の習慣づけの大切さに基づき、そのための用具のあり方を考察し開発を試みたものである。

研究の第一段階として実情を確認するために埼玉県の間保育園（社会福祉法人向日葵会ひまわり保育園）および本学附属幼稚園小金井園舎の協力を得て保護者を対象にアンケート調査を行なった。対象品目を予備調査の結果から本と玩具に絞り、期間は2011.7.20から2011.9.12まで。対象者数は前者が90名、後者が152名。回答数は前者が36名、後者が139名で回収率30%と67%であった。項目は(1)園児の年齢と兄弟の状況(2)子ども部屋の有無(3)本の所有数(4)本の活用状況(5)本の収納方法(6)本の片付け状況(7)本の片付けにおける問題点(8)所有玩具の種類(9)所有玩具の量(10)片付け収納の用具(11)玩具の片付けに際しての問題点など。

1次調査の結果をふまえてアンケート調査対象者から協力者を得て、さらに具体的な状況を知るために2次調査を行なった。期間は2011.9.25～10.18。方法はメールおよび電話での聞き取りである。また承諾を得た家庭からは写真の提供を得た。

以上の調査から得られた情報は非常に現実的で示唆に富むものであった。ただし玩具については極めて多種多様なため、残された時間を考慮して今回は本を対象とすることとした。本の片付けに関してもたいへん多様な内容を含むものであったが、分析の結果大きな傾向として以下のことが明らかになった。(1)2歳から5歳あたりの未就学児は本を内容で分類する(分類して整理する)ことは出来ないかほとんどしない。(2)当人および親にとって本の整理・収納の上で最も障害になっているのは寸法が様々であること。(もともと絵本には頁数以外に規格らしきものがない)(3)この年齢までの幼児は大人のように本を揃えて詰めて立てる作業はあまりできない。(4)文字読解力の低いこの時期の幼児にとっては本の背表紙だけでなく表紙が見えると本の選択や片付けがしやすい。

これらの4点を主たる観点に2種類の幼児用本棚を考案した。1つは横積み方式で大きさによって区分けした本棚。一段に乗せる冊数が多くなれば平積みでも出し入れにそう苦労はしない、片付けの際はむしろし易いのではという考えの下に設計したもの。下段ほど棚板を広く上段に行くほど狭くし、安定と大きさによる区分など幼児にとっての片付けに向けた意識の向上と作業のし易さを想定したもの。もう1つは縦のしきり区分を細分し棚板にも傾斜を加えることで本を詰めて立てねばならない状況を避け、かつ少しでも表紙を見せて本を選択しやすいようにした本棚である。

2案のうち前者は実際に使用に供する水準の試作が出来たが、後者は主要な諸元は確定できたものの工作上極めて高い精度が要求されるため構造や寸法、機能を確認する実寸大モデルの段階で時間切れとなってしまった。本来は1次試作を基に改良を加えた2次試作品6台を制作し、ひまわり保育園と附属幼稚園小金井園舎、および協力家庭2軒において試験的に使用してもらうこととなっている。これによって想定した機能が発揮されるか否かや問題点を検証する予定としていた。当初の予定ではここまでする23年度で行なうつもりであったが他の研究とも重なり残念ながら至っていない。

現在2次試作を制作中であり、協力を得て24年度引き続き実証研究を行なう予定である。検証結果によっては商品として世に出す可能性も検討中。

研究成果発表方法

1次アンケート調査の結果は2011.9.25大学美術教育学会(於宮城教育大学)にて指導担当院生とともに口頭発表。その後の経過は24年度大学美術教育学会誌に投稿予定。